

特集

第三世界から見た中国の対外関係

中国外交を見る視点 ●…………… I

論説

ベトナムから見た中国外交——「大国」としての隣国—— ●古田元夫…………… 7

カンボジア紛争と中国外交 ●今川幸雄…………… 21

中国外交の軌跡と中東からの視点 ●北村文夫…………… 39

戦略なき自己本位の「大国主義」

——中国のアフリカ外交に関する一考察—— ●高林敏之…………… 55

ベルリンの壁は天安門広場で倒れた

——八九年「東欧の激動」と天安門事件—— ●千田 善……………73

「第三世界」としての「中国」

——いわゆる台湾の国連再加盟問題をめぐって—— ●河辺一郎……………85

*

*

*

中国の国連政策 I 「インタビュー」 ●王 傑……………121

中国の国連政策 II 「対談」 ●朱 鋒×河辺一郎……………134

研究ノート

中国と東ティモール問題 ●古沢希代子……………147

「千歳丸」の上海行

——日本幕末期の中国観察を評す—— ● 馮 天瑜

169

書評

黄 英哲著

『台湾文化再構築 1945～1947の光と影』——魯迅思想受容の行方—— ● 下村作次郎

199

天 南 地 北

中華いろいろ

古森利貞

208

読書偶得

張 琢

213

大学へ進む道

皮細庚

215

〔表紙絵紹介〕

「中国万華鏡 II」

方 振寧

[Fang Zhenning]



現代美術家、評論家。1955年、中国江蘇省南京市に生まれる。幼年時代「北大荒」版画家である父親の影響を受け美術を学ぶ。1982年、中国の美術の最高学府北京中央美術学院（国立）を卒業。中国美術家協会機関誌「美術」チーフ編集者兼記者、中国広播電影電視部中国電視劇制作中心（CTPC）アートディレクター、故宮博物院紫禁城出版社チーフ編集者、中国美術学院付属高校客員講師をつとめる。1988年来日後、芸術創作のほか現代アートと建築の評論を行なう。この十年來、今までの平面絵画から転じて、現代都市の新しい公共空間に合ったパブリックスペースアート作品を制作し、現在すでに4つの大型作品が日本各地で完成している。「STAR LIGHTS」（横浜上大岡／1996.10）、「SPIRAL」（東京大森／1996.9）、「星河」（福岡博多／1998.4）。「正方形の変容」（埼玉／1999.4）。方振寧の作品は、多くが鮮やかな色彩と明快な構成で、アートと現代建築との間のコミュニケーションを行なっている。海外で都市建設に携わっている数少ない中国人アーティストであり、ミニマリズムの特徴をもつパブリックアーティストである。